

学生海外調査研究	
中世後期イングランド北西部 ウィンダミアに関する現地調査	
氏名 加藤 はるか	比較社会文化学専攻
期間	2014年7月13日～2014年7月23日
場所	イギリス ロンドン、湖水地方
施設	カンブリア州立公文書館 ケンダル支部、アーミット図書館

内容報告

1. 海外調査研究の必要性および目的

中世イングランド農村、農業史は、長らく耕作に軸を置く東南部やミッドランドなどの地域を中心に議論されてきた。その背景にはこれらの地域の所領の記録が豊富に残っていた事と、ポスタン以来盛んな人口史や食糧の供給、人口と資源の関係の議論とこれらの地域が結びつきやすかったことが挙げられる¹。こうした従来の研究では、「耕作地」が農村の暮らしや農業の中心として捉えられてきた。そして耕作こそがその地域の豊かさを決定付けるものであり、耕作が出来ない、あるいは制限されるような地域は「周縁地域」と見なされ、ほとんど関心が払われてこなかった。

報告者はこうした「周縁地域」の一つである、イングランド北西高地（中世当時のカンバーランド、ウェストモアランド州）に注目し、研究を行っている。土地が耕作に向かない北西高地では、そこに住む人々は自然資源を入会地として共同で利用しており、現在もこの地域の入会地はイギリス全体の約3分の1に及ぶ。そこで耕作地ではなくこの入会地を中心に北西高地の農村、農業を分析したのがウィンチェスターである²。

マナにおいては、領主と住民の間の、あるいは農作業等に関わる住民相互の関係を良好に持続する為に、必然的に「暗黙の了解（慣習）」が発生した。それらの一部は、人間関係において生じるさまざまな摩擦ゆえに、ある種のルール（規範）とならざるを得なかった。このルールはマナ内部においてのみ有効な、広い意味での法であり、本来は文書化されることのない慣習法であった。その為、通常マナ慣習法を後世の我々は知ることが出来ない。しかしマナ慣習法の内ごく一部が、必要に応じてマナの成員に周知徹底させる為に、マナ法廷において確認、文書化された。これが村法と呼ばれるものである。従って我々はマナ法廷の記録などに残る村法を通して、マナ慣習法の一部を知ることが出来るのである³。

ミッドランド耕地制では、住民共同で行う農作業や放牧を円滑に運営する為に、それぞれのマナ、ないし集落で必然的に規範が発生した。そこでオールトはミッドランドのマナ法廷の記録の中から村法を収集し、これを検討することでミッドランド制の農作業の実態を解明した。同様に、北西高地の村法には、入会地の利用をめぐる住民間のルールや、住民と領主との間の取り決めが多く含まれていた。また北西高地ではマナ法廷が入会権の行使に関わる問題を調整する機能を有していた。そこでウィンチェスターは北西高地における村法やマナ法廷に現れる規範から、北西高地の一般的な農作業やその年間スケジュールを明らかにした。

ウィンチェスターは北西部における高地として、4つの地域を挙げており、これらの地域はそれぞれ地形や環境、領主との関係が異なる。⁴しかしウィンチェスターの研究では、北西高地内の地域差の考察や、数値的データや具体的なマナなどの事例検討が不足している。そこで報告者は北西高地内のウィンチェスターが示す4地域の一つである、湖水地方のウィンダミア・マナを例に、事例研究を行っている。北西高地の中世後期に関する史料は多くはなく、ウィンチェスターが中世後期の史料としてしばしば引用しているのが、ウィンダミア・マナの村法がリスト化された史料である。しかし、ウィンチェスターによるこの史料の考察は十分で有るとは言えず、これまで報告者はこの史料の再検討を行ってきた⁵。

中世後期の北西高地の特徴の一つは、その広範な地域が、私有のフォレストないしはチェイスであったことである。これらは13世紀以降、本来の狩猟目的ではなく、放牧地として利用することで、領主に利益をもたらした。その方法はマナや領主によって様々であったが、ウィンチェスターはそれを大きく二つに分類した。一つは彼が「閉じたフォレスト」と呼ぶもので、領主直営の放牧場 *vaccary* とすることで、領主主導で牧畜が行われた。もう一つがウィンチェスターが「開いたフォレスト」と呼ぶもので、フォレスト内に農民の定住を認め、彼らなどに有償でフォレスト内での放牧の権利を認めるものであった。しかし15世紀までには、直営の放牧場も貸し出されたり、分割されるようになり、この2タイプには以前ほど差がなくなった。その後16世紀にはフォレストはフォレストたるその地位を忘れ去られ、マナの荒蕪地として地域住民に放牧権が認められ、また囲い込みも進んだ。しかしこうした過程において、また放牧における家畜の頭数制限において、そこがかつて「開いたフォレスト」であったか、あるいは「閉じたフォレスト」であったかで異なるタイプを示したとウィンチェスターは指摘する⁶。

中世後期の北西高地での放牧は、この私有のフォレストとそれ以外のマナの荒蕪地で行われたが、私有のフォレストについての事例検討はなされておらず、またその二つでの放牧が農村共同体においてどのように共存していたのかは明らかではない。報告者がこれまで村法史料の再検討を行ったウィンダミア・マナは、バロニーのフォレストに含まれる領域と、含まれない領域から成り立っていた。村法史料の再検討の結果、フォレストの利用にはフォレスト内の住民かどうかと言う線引きが存在しており、またフォレストの使用用途により、利用できる対象となる住民も異なっていたことが明らかとなった。これはウィンダミアの農村共同体において、土地や自然資源の共同利用対象者の枠組みが、マナ、村区の枠組み以外にも存在しており、住民達は様々な枠組みの中で土地や自然資源利用していた事を示唆している。しかしウィンダミアのフォレストにおいて、実際の管理はどのような立場の人物により、どのような形で行われていたのだろうか。またマナ、村区ごと、あるいはフォレストに含まれるかどうか以外にも、土地や自然資源の利用をめぐる枠組みが村落共同体に存在したのだろうか。加えてウィンダミアの特徴として、林地が多く広がっていたことがあげられるが、領主の収入にも大きく関わる住民による林地の利用を、領主は実際にはどこまで制限できていたのだろうか。このような点をこの史料では明らかにすることが出来なかった。

ウィンダミアについては、この史料とは別に15世紀のマナ法廷の2回分の記録が存在している。⁷村法史料とは同時代の史料であり、関連性があることも考えられる。しかしウィンチェスターはこのマナ法廷の史料については本文で一切触れていない。またこの法廷の記録では、マナにおいて4つの区域分けが存在しているが、それはこのマナの4つの村区とは異なっている。

また中世において農業はその地の地形や気候などの地理的条件に大きく左右されていた。そこでウィンダミアの領域、地形、気候などを地図化して、史料から得られた情報と合わせて考察することで、文字史料の不足も補えるかもしれない。よって報告者はウィンダミア・マナについて、別史料であるウィンダミア・マナ法廷の2回分の記録と共に、文字史料以外の地理的条件や景観などの情報を用いて総合的に検討することで、中世後期ウィンダミアの農村の暮らし農業についての事例検討を行うことが出来るのではないかと考える。

ウィンダミアの地理的条件や景観については、すでに当時の集落やフォレストの位置を現在の地図上でおおよそ掴んでいるが、前述した形の研究を今後行う為には、現地において村落等の位置や景観の確認、最古の官製地図である *ordinance survey* の第1版の閲覧、マナ法廷の4つの地域の区分けを裏付けると考えられる新たな史料の入手を現地で行う必要が生じた。そこで今回以下の海外調査を実施した。

①カンブリア州立公文書館ケンダル支部所蔵の史料調査（特に CRO (Kendal) WD/TE1/III/310, TE2/IV/266, TE3/ IX/18)

カンブリア州立公文書館では、日本から史料のコピーや画像ファイルを購入することができない為、現地に赴かない限り史料を調査、入手することができない為。

②湖水地方(ウィンダミア周辺)での地形、景観のフィールドワーク

当該地域の現在の地形や景観、報告者が研究対象とする中世後期の景観の名残の調査は、地図やインターネットからでは十分に実施できず、現地でのフィールドワークが必要な為。

③湖水地方とロンドンでの古地図、地域史研究の二次史料の調査

日本やインターネットでは出回らない古地図や地域史の文献も多く、現地でローカルな

視点から探索する為。

2. 調査の結果

2.1 カンブリア州立公文書館

カンブリア公文書館ケンダル支部ではイギリス国立公文書館 National Archives とは異なり、日本から史料のコピーや画像ファイルを購入することができない為、今回現地に赴いて調査を行った。閲覧する史料については、事前にネット上のカタログで資料番号を確認したうえで訪問した。ここではデジタルカメラの使用料を支払うことで、閲覧した資料の写真を自由にとることができる。

今回はウィンダミアの15世紀のマナ法廷の記録に現れる4つの区分けの一つ、ald park の位置の根拠となりうると思われる史料、ordnance survey の第1版の地図などを閲覧、写真にとることができた。ordnance survey の25インチ地図の第1版は1856-9に製作され、大英図書館でもマイクロフィッシュで保管されているものの、カンブリア公文書館ケンダル支部では実物を見ることが出来、写真撮影できたことで、今後情報をまとめた地図を製作する上でとても有用である。

またウィンチェスターが利用した、17世紀のライダルというマナでの有償飼育の記録(gist book)も確認予定であったが、ウィンチェスターの註に記されていた史料番号(WDRY/Box36)の中に該当するものを見つけれなかった。そこでアーキビストに相談し、どのような史料かを説明した所、別の資料番号の史料(WDRY/1/17/4)に内容が適合することが判明し、この史料を確認したところ、探していた史料であったことが判明した。ウィンチェスターの註の誤りと共に、この有償飼育の記録がウィンチェスターの利用した年度だけでなく、かなり幅広い年度で残されていることが判明した。

2.2 湖水地方フィールドワーク

今回の調査では、ウィンダミア湖畔のボウネス、ウィンダミア、アンブルサイド、グラスミアの各町を歩き回った。谷に沿って細長く広がったグラスミアの集落、どこまでも続く丘陵地と緑の放牧地。放牧地は様々な緑色に分かれ、それぞれを囲い込む石垣や生垣。放牧された羊たちと散策の為に整備されたフットパス。こうした実地でのフィールドワークにより、地図上分かったつもりになっていた実際の地形を体感できたと共に、この地方の著しい高低差、自然環境という中世から変わらない景観の名残と、18世紀以降出来上がった土地の境界を示す石垣や生垣や、フットパスなどの昔とは変わってしまったものを現在の景観の中に認めることが出来たのは、今後地理学的観点からもこの地域の研究を進めていく上でとても大きな収穫であった。

2.3 湖水地方とロンドンでの古地図、地域史研究の二次史料の調査

「アーミット・ライブラリー&ミュージアム」はアンブルサイドの町中にある小さな図書館兼美術館で、19世紀に活躍したアーミット三姉妹が収集した湖水地方の地域史、自然史の蔵書を基礎として創立された図書館で、その後美術品や工芸品なども常時展示する博物館なり、現在1Fが博物館、2Fが図書室となっている。現在蔵書は10,000冊以上のぼる。ここでは湖水地方、特にウィンダミア周辺に関する地域史の、これまで見たことのない2文献などを閲覧、調査した。しかし地図に関してはめぼしい成果を挙げることはできなかった。

また湖水地方各地の書店、並びにロンドンの地図専門店などを回り、古地図や二次史料を探した。しかしながら、現在湖水地方はトレッキングが大変盛んな地域となっており、湖水地方各地の書店、並びにロンドンの地図専門店でも、湖水地方関連の地図はこうした需要に合わせて、トレッキング用の地図のみが大量に用意されている。湖水地方の地図で有名な書店での調査によると、古い時代の地図を扱っているような書店、古書店はこの地域では皆無に等しいとの事であった。また湖水地方の書店では地図の販売が中心で、地域史研究の二次史料についても、残念ながら入手しているもの以上の収穫は得られなかった。

3. 今後の展望

今回の海外調査は、基本的に当初の目的をほぼ達成することが出来た。今後は前述のとおり、15世紀のマナ法廷の2回分の記録と共に、今回入手した史料や情報の分析をおこない、これまでのウィンダミアの村法史料の再検討の結果と併せて、ウィンダミアの農村の暮らしと農業についての事例検討としてまとめる。報告者は来年度提出予定の博士論文において、中世後期イングランドの地域史研究として、ウィンダミアの農村の暮らしと農業について

ての事例検討と、ウィンダミアを含む地域の政治についてを取り上げる予定である。ウィンダミアの農村の暮らしと農業についての事例検討はこのうち 3 分の 2 程度を占める予定である。またウィンダミアの農村の暮らしと農業についての事例検討部分を『社会経済史学』に投稿する予定である。

最後に今回の海外調査は、報告者が今後この分野において国際的な女性リーダーとなっていく為に非常に有意義なものであったと確信している。

注

1 近年の中世イングランドの農業、農村史の動向については以下を参照。Christopher Dyer and Philipp Schofield, 'Recent Work on the Agrarian History of Britain', in Isabel Alfonso (ed.),

The Rural History of Medieval Societies, Turnhout: Brepols, 2007, pp.21-55.

2 ウィンチェスターの主な研究は以下の通り。
Angus J. L. Winchester, *Landscape and Society in Medieval Cumbria*, Edinburgh: John Donald, 1987;
Do, *The*

Harvest of the Hills: Rural Life in Northern England and Scottish Border, 1400-

1700, Edinburgh: Edinburgh University Press, 2000; Do, 'Statute and Local Custom: Village byelaws and the Governance of Common Land in Medieval and Early-

modern England', AHRC Contested Common Land project's working paper, 2008.

3. 加藤哲実『宗教的心性と法—イングランド中世の農村と歳市』国際書院、2013年、pp.39-41,59-83.

4. Winchester, *Harvest of the Hills*, pp.1-4. ウィンチェスターは中央ペナイン、北部ペナイン、湖水地方、国境の丘陵地帯の4つの地域を挙げている。

5. この研究成果については本年度の『お茶の水史学』に投稿中である。

6. Winchester, *Harvest of the Hills*, passim.

7. National Archives, SC2/207/12-121.

参考文献

加藤哲実『宗教的心性と法—イングランド中世の農村と歳市』国際書院、2013年。

Mick Aston with Martin Ecclestone, Maria Forbes and Teresa Hall, 'Medieval Woodland in Winscombe Parish in North

Somerset', *Somerset Archeology and Natural History*, 154(2010), pp.71-118.

W. O. Ault, *Open-Field Husbandry and the Village Community*, Philadelphia: American Philosophical Society, 1965

W. O. Ault, *Open-Field Farming in Medieval England*, London: George Allen and Unwin, 1972.

Christopher Dyer and Philipp Schofield, 'Recent Work on the Agrarian History of Britain', in Isabel Alfonso (ed.), *The*

Rural History of Medieval Societies, Turnhout: Brepols, 2007, pp.21-55.

Harold Fox, *Dartmoor's Alluring Uplands -*

Transhumance and Pastoral Management in the Middle Ages-, Exeter: Exeter University Press, 2012.

Andrew Watkins, 'The Woodland Economy of the Forest of Arden in the Later Middle Ages', *Midland History*, 18(1993), pp.19-32.

Angus J. L. Winchester, *Landscape and Society in Medieval Cumbria*, Edinburgh: John Donald, 1987.

Angus J. L. Winchester, *The Harvest of the Hills: Rural Life in Northern England and Scottish Border, 1400-1700*,

Edinburgh: Edinburgh University Press, 2000.

Angus J. L. Winchester, 'Statute and Local Custom: Village byelaws and the Governance of Common Land in

Medieval and Early-modern England', AHRC Contested Common Land project's working paper, 2008.

かとう はるか／お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科比較社会文化学専攻

指導教員によるコメント

加藤はるかさんの海外調査は、中世イングランド農村社会の多様性を明らかにする目的で行われました。アンガス・ウィンチェスターの *The Harvest of the Hills* という研究が明らかにしているような、中世末以降のイングランド北部高地地方における伝統的な農村の生業は、高地放牧と林地利用から成り立っており、耕作中心の典型的荘園イメージとは異なっています。そのような農村社会のありかたが、いつごろからどのようにして成立していたのか、北部高地地方の農業社会を維持させていた仕組みはどのようなものだったのか、またそれらを文献史料からどの程度までたどることができるのか、さらに歴史的景観やフィールド調査によりどの程度確からしさを裏付けることができるのか、このような疑問に答え、博士論文へと結びつけるために、今回の海外調査はなくてはならないものでした。今回の成果が博士論文へと結実することを期待しています。

(文化科学系・新井由紀夫)

A Research of Late Medieval North-West England: Windermere for an example

Haruka Kato

In rural community of late medieval North-West England, especially upland, stock farming is foundation of economic. People in the region use resources as common land. However, it is not clear detail of manor level. Therefore, I'm studying Windermere manor's agriculture and rural life. The purpose of this overseas research was two things below. First, to collect manuscripts and old maps related to late medieval and early modern Windermere manor. Second, to do landscape, topographical and archaeological fieldwork related to Windermere. I have gotten very useful sources and informations for my doctoral thesis.
